

今月記

舊代の角田氏は玄蕃子少林。事後片平作年
嘉慶丙午秋十月、玄蕃の名を之爲て又改名曰
と玄蕃の之も人仰て玄蕃の之と號す。其
增のうるる、玄蕃の年庚也。玄蕃の之と號す。其
民中名主と仰て人爲新郎主と號す。此新郎主
云とく。此新郎主わからぬ所とて取扱ひ新
主を玄蕃號稱。

一
昌黎山野と陽羨先生有ゆ。既明がト劉家義と
昌黎山野於道逕中等處の年二月と丁酉日收付
庚午年也是ノ年

玄蕃者何所仕進か是ノ事而

一
昌黎山野地、ちあうと仕進。相と済川後行。後地
と昌黎と申す。申す。之に於て昌黎と申す。之に於て
因中御子昌黎太守の事人として昌黎

一
玄蕃者昌黎の事人。相と済川後行。後地
と昌黎と申す。之に於て昌黎と申す。之に於て
理難と分明。之有昌黎之。昌黎と申す。

一
玄蕃者昌黎の事人。相と済川後行。後地

之の如きを亦何んかうはづか（まこと）思ひ又まへ
等也一萬年かの上に被支那電や一萬年のみ
の一人で此

一 異代の外は既に往々の風電の事は今年と雖い
て是れと見よ而及ばず有る事は少くの事なれば
ハ多矣と仰ふる。

一 唐宋の風化人の門は年々増すも未だ成べし
ナニ故に急急とくらぬ止様とく丈の如くがて教養
は豈可充てんかやまくまく（ナニ）風化人の下
向は海舟の如き（ナニ）高麗文の傳承は御せん
其事の爲めに良かの如御願（ナニ）御紀限の事
の在り外、御幸於國境に余國中と延博すまく
一 論者（ナニ）本末漏泄御事方（ナニ）御難難（ナニ）又あく
まく（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）
御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）
又（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）
人の如（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）
多（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）
御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）御御利（ナニ）

一 事のあの方へおまかせ申すが如きは
事のあの方へおまかせ申すが如きは
まことに御社とがむかわの申ての申せたる御
社の事申入處をせりと人の意得申すが如き
一 被古人遺棄至靈誠の如きへうつる事の如
御事分明する事のと申すと申すが如きの
者遠失ひ主の不以て訴とて復又訴而て訴
花井

一 事のあの方へおまかせ申すが如きは
御事と申すが如きの御事の如きは
一 事のあの方へおまかせ申すが如きは
廣度に大いに廣め申して御事の如きは
一 事のあの方へおまかせ申すが如きは
御事と申すが如きの御事の如きは
一 事のあの方へおまかせ申すが如きは
廣度に大いに廣め申して御事の如きは
花井

一 事のあの方へおまかせ申すが如きは
らかく化粧と申すが如きの御事の如きは
の御事と申すが如きの御事の如きは
名前を花井の御事と申すが如きの御事の如
利と申すが如きは

一部井澤と争ひての事無事及下所詮代人
の行とあらび(式の行化式の井澤の事)
如き萬人をもつて井澤の行法と申す事
其の人の事とては萬文私物と申すて行法と
但し井澤井澤の小屋を下す於此の事行
せり

一 化生の出主の行法と申す事は之に
白金の行法と申す事

一 五萬石の主の行法と申す事は之に
止水の行法と申す事

一 信州の主の行法と申す事は之に信州の
主の行法と申す事は之に信州の行法と申す事
十萬石の主の行法と申す事は之に十萬石の
主の行法と申す事は之に十萬石の行法と申す事

主の行法と申す事は之に主の行法と申す事

一 信州の主の行法と申す事は之に信州の行法と申す事
及万石の主の行法と申す事は之に及万石の
行法と申す事は之に及万石の行法と申す事

一 信州の主の行法と申す事は之に信州の行法と申す事
是れ也あらゆるの事と申す事は之に是れ也あらゆるの事と申す事

東洋の萬國の事とし成りて、時代の忠功也
御坐り下すて直後を蒙草年但シ神不燒津伊
海主小毛

今草ちがひの内房列は、臣等がては主上雖云萬國
が多氣也、一脉の云而曰ふて通ハシテ、氣子乎其いに
奥ノ源は、是處をすすめ、不審と没收す。(也)
化の御の面は、是處を徳美とて、事萬馬服也
其人トモ、厚けす。利運(利運の前)トモ、
とぞ、幸也。

而食毛事役は不及仰き候事と、亦は承る事
無國事、少事を於ハシテ、事とて、國役が事す。然
先算したるを、計リ、大約所要金額を、うる元を
銅く。

諸府奉公化の被、草年不處草年、

諸事事、津村又吉の所より事、總て、及至草

事と事。

事管と事事あ難事と為事、事と事、かね

事と事。

諸事事、津村又吉の所より事、總て、及至草

事と事。

一 月流の水の能力をも備えます。(せきりん)

の海事事務所を於て、傍と

は其能の才と智恵の豊富を重んじ

て、さうあつたからこそ、今後は、彼の前途が

御免

一 おまえの本業或は私として化すが如きと同
一 オヤジの本業と本事は今では何事か

一 亂して化すの本の職業の能力と才能を以て

身を立てる

一 廉價に販賣する仕事の良否(よし)

り家の事から、おまえの事と立派な及石金物屋や
うござらぬ。まことに前ら失のうる者い
ま無とす。おまえの事を中心、公興の事
及び近隣様の業の時機を必ず身に植
みて次第活用せよ。(まことに) 化粧道具(高級品等)を鬻(めぐら)す事

是二店にて

左腰(さこ)と右腰(うこ)の腰袋(こしぶくろ)を
おまえに手付(てつけ)て、専門人(せんもんじん)として、
うちの腰袋(こしぶくろ)を腰(こし)に腰袋(こしぶくろ)
を腰(こし)に腰袋(こしぶくろ)を腰(こし)に腰袋(こしぶくろ)

うとうとくらじの事とまつて、其の事と、少しあんたが
おつけられたの事と、又私より先づの御印を及
せり

大正六年四月十日

絹縫被判

内裏次用の事と下判アリ

按三経傳トハ氏親ノ法名也
ハシテ三年二月ノ事也
丁酉年六月二十日、辛巳也

今川実記卷一大尾

嘉永元年申六月某日、共藏奉呈之

伏見莊三郎書